

第48回

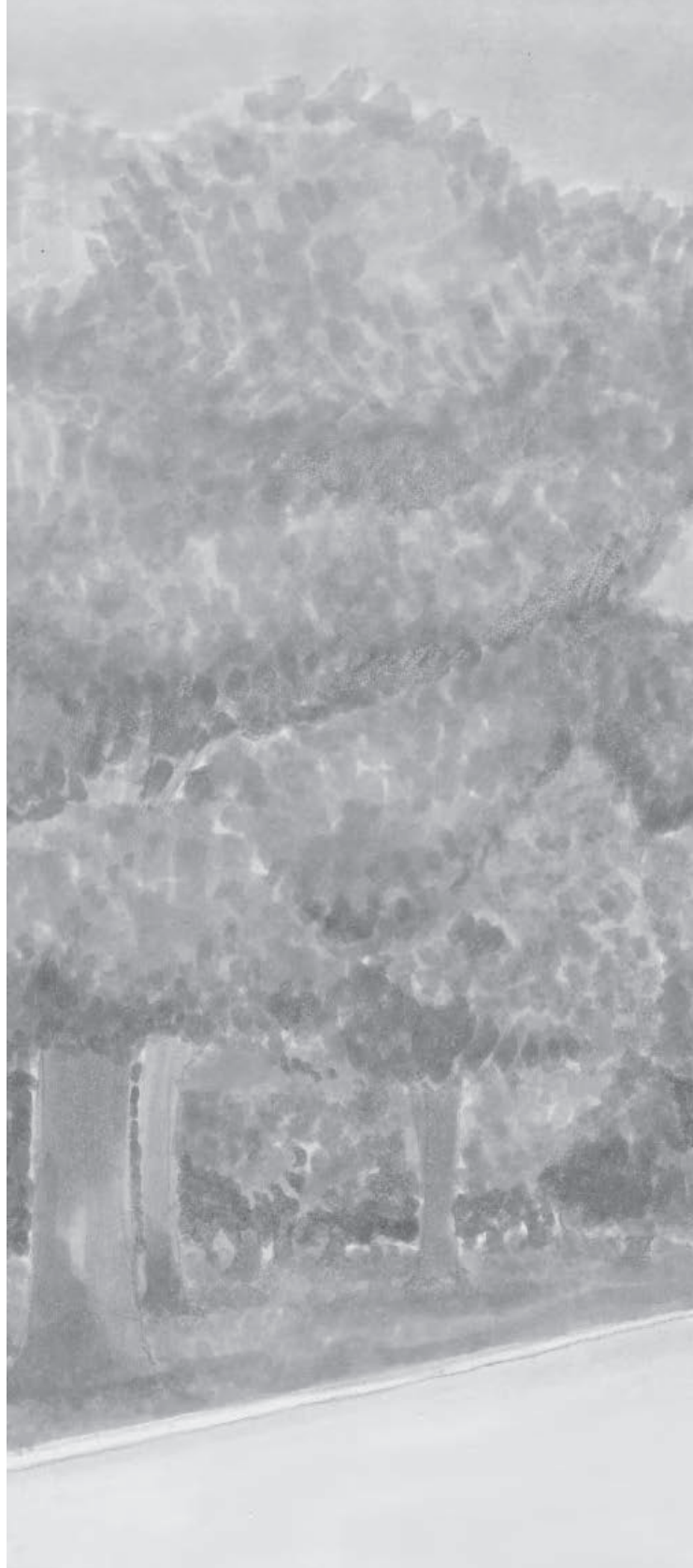
その町や国の 成り立ちを知る 博物館へ

どこの町に行っても博物館(小さな町だと郷土資料館)は面白い。その町や国の自然科学、考古学、文化や生活文化などを知ることができるので、旅先で時間があれば、いつでも行きたい場所だ。

先日、5年ぶり4度目の台湾へ出張した。国際ブックフェアに呼んでいただき3日間の仕事を終えた後、国立台北博物館へ初めて行った。古生物館は、アンモナイトや三葉虫に代表される古代生物から、その進化をたどり中生代を経て恐竜期などへの変遷をたどることができる。大きな模型もあり見応えたっぷり。古代、大陸とつながっていた頃いろいろな生き物が交差し、現在の多様な台湾の生き物になったとある。たとえばそれがアジアぐま(日本ではツキノワグマ)が台湾にいる理由なのかもしれない。そして、少し前に仕事で描いた絶滅危惧種のセンザンコウの標本が展示されていた。日本にはないので標本だが実物を見ることができて嬉しかった。同時に、希少な生き物が日本でも台湾でも世界でも消えようとしていることに危機感を感じた。

網走の北方民族博物館や札幌の北大博物館などでも、北海道が大陸とつながっていた間に渡ってきたオホーツク文化と言われる展示や標本がある。さまざまな人や物、マンモスやヒグマなどの生き物が北方から渡ってきたのだ。今私たちが立っている同じ大地の上で、大昔マンモスがのっしのっしと歩いていたのかも想像すると面白い。

さて台湾では現地の食を思う存分食べた。気候風土、自然と歴史が織りなす食文化を博物館に行った後で食べると、また違った味わいになる。北海道の美味しさも脈々と続く大地と暮らしの^{おい}賜物なのだ。



※絵は北海道大学総合博物館



すずき もも

イラストレーター・絵本作家／元スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: さざやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。